

2022年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲 Euphonium ワンポイント・アドバイス

吹部
Navi

I やまがたふあんたじい～吹奏楽のための～

作曲：杉浦 邦弘

アーティキュレーションを正確に吹きましょう。ゆっくりなテンポで練習しましょう。13～14小節目のフレーズが何度か出てきます。スラーの終わりにスタッカートがつくパターンは音の切りが雑にならないように注意してください。メロディーはフレーズを大切に、同じメロディーを演奏しているパートとのバランスに気をつけましょう。特に29小節目 3 拍目～30小節目の 8 分音符はスピード感が落ちないように気をつけてください。35～36小節目は、f から ff の表現を音量の変化だけでなく、遠近感を意識してみると良いかもしれません。38小節目は運指の練習をしましょう。テヌートは、一度スラーで吹いてみて、息の流れをつかんでからタンギングすると音が均等に並びやすいと思います。68～119小節目は、音が鋭くなりすぎないように、またフレーズを感じながら吹きましょう。159～167小節目は、フレーズを意識しながら吹きましょう。そして183～194小節目は、スタッカートとアクセントで音色が著しく変化しないように気をつけましょう。

II マーチ「ブルー・スプリング」

作曲：鈴木 雅史

1小節目の、F → B \flat → F（107小節目も同様に）の音程に注意して、リップスラーで吹き音程の確認をしてみましょう。オブリガードの休符はフレーズの一部として感じるようにしましょう。[C] アウフタクトからのメロディーは同じフレーズを吹くパートとのバランスに気をつけましょう。22小節目の1拍目の符点の音符はスピード感が失われないように気をつけましょう（他の小節で出てきた時も同様に）。また転調した際、臨時記号を見落とさないようにしましょう。音程が不安定にならないように、フレーズの流れをイメージすると良いと思います。62小節目（他の小節で出てきた時も同様に）は、2拍目の8分休符をしっかりと感じとるようにしましょう。スラーとの対比をつけるように意識すると良いかもしれません。メロディーとオブリガードを繰り返す際には、アクセントの音質とスラーでの音質、響きの違いを出せるようにしましょう。スタッカートのついたフレーズを一度ゆっくりとスラーで吹いて音の移行を覚えましょう。スラー → スタッカートと交互に練習してみると音程も安定し最終的にスタッカートが綺麗に演奏できるようになります。105小節目の B \flat のアクセントは音が潰れやすく、音程も不安定になりやすい音ですので、丁寧さを心がけましょう。

III ジェネシス

作曲：鈴木 英史

テヌートやアクセントがついている音符とついていない音符の違いを吹き分けられるようにしましょう。同じ運指で音を変えるパターンはリップスラーで練習してからアタックをつけると音程が安定してきます。音の間隔をしっかりと覚えるようにしましょう。音量の違いを遠近感で表現してみても良いと思います。（遠 → mp 近 → mf など）スラーのフレーズはスラーが切れているところで音がブツと切れないように注意しましょう。また、スラーの頭の音がぼんやりした音にならないよう注意して下さい。29小節目の1拍目の8分音符の収め方は丁寧に置いていくような感じで吹くと mp が表現できるのではないかと思います。D から F までは、豊かな響きを持った音色で流れを意識しながら吹きましょう。36小節目は8分休符を意識してはっきりと吹くようにしましょう。49～63小節目は2小節間のクレッシェンド、デクレッシェンドのロングトーンで息のイメージを覚えてフレーズに当てはめてみるとわかりやすいかと思います。Coda からは アクセントのついている音がカンド吹き方にならないように。更にスラーとの違いをはっきりとつけ、曲にメリハリがつくようにしましょう。

2022年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲 Euphonium ワンポイント・アドバイス

吹部
Navi

Ⅳ サークスハットマーチ

作曲：奥本 伴在

全体を通してアーティキュレーションを正確に演奏しましょう。臨時記号の見落としや転調した時にも運指を間違わないように気をつけてください。メロディーを吹いている時は他パートとのバランスに気を使いましょう。また、長いフレーズを吹く時は後半に音が細くならないようブレスコントロールしてください。1小節目3拍目にあるような符点の音符は、スピード感が落ちないように気をつけ、符点の音符だけ取り出して練習しましょう。15小節目からの装飾音符は、タイミングが大事なので、装飾音符をつけずテンポ感を掴んでから、装飾音符をつけて吹いてみましょう。16小節目3拍目Hの音程は不安定になりやすいのでC → H → Cを繰り返す練習で鳴らし方を覚えてください。37小節目は1拍目アクセント、1拍目の裏からスラーと忙しい部分です。まずは、スラーでB♭ → Fを繰り返し練習し、Fが安定して出るまで練習してみてください。次に1拍目裏からのスラーを練習し、最後に37小節目の頭から吹いてみましょう。音域的にも音量が出にくい部分でもあるので、安定して吹けるように練習しましょう。Hはトロンボーンとのバランスに気をつけて響きのある良い音で吹きましょう。ラストの小節のB♭は音量も大事ですが、音が潰れないように、最後まで音質にこだわって練習してみてください。

V 憂いの記憶－吹奏楽の為の

作曲：前川 保

全体的に拍通りにきちんと吹き、なんとなく入らないようにしましょう。6小節目のアウトタクトからのsoloは6小節目1拍目が6連符の中に収まるように気をつけ、また2拍目の6連符の入りも遅れないよう1拍目と2拍目を分けてそれぞれ練習してみましょう。8小節目と10小節目のtrem.は、息のスピードが落ちないようにまっすぐに吐くことがポイントです。また、trem.でクレッシェンドをかけていくのは、一気にやろうとせず、始まりの音を伸ばしクレッシェンドしていく練習とtrem.で吹く練習をすると良いでしょう。21～23小節目は、6連符の練習とクレッシェンド、デクレッシェンドの練習と分けて練習すると綺麗に仕上がると思います。また、23小節目アウトタクトからは半音階がきちんと聞こえるように、半音階の練習とタンギングの練習と分けて練習してみてください。36小節目からは、音のパターンを覚えるまで練習をし、低音域で音が潰れないことやfffでの音質には気をつけてください。また、拍子の移り変わりが多いため、リズムの練習と音の確認は分けて練習することをお勧めします。68小節目3拍目の3連符最後のH音は、音域的に高いのですが、あまり慎重になりすぎると音量が減衰したり、遅れたりしやすくなります。そのため、分割して練習すると良いでしょう。73小節目3拍目からの3連符スタッカートは、スラーで練習し、音の移り変わりや流れを確認してから楽譜通りに演奏してみると綺麗に仕上がると思います。ラストのfffは音量もですが、重量感を意識してみてはいかがでしょうか。